メッセージ　7

# 救いの創始者（キャプテン）、
# 先駆者が多くの子たちを栄光へ導き入れるのは、
# 幕の内側に入り、営所の外に出ることによってである

聖書：ヘブル 2:10-11．6:19-20．13:13

| | |
|---|---|
| 救いの創始者が<br><br>多くの子たちを栄光へ導き入れる | ヘブル 2:10 万物がその方のために存在し、万物がその方を通して存在する方が、多くの子たちを栄光へ導き入れるのに（ために）、彼らの救いの創始者を、苦難を通して成就されるのは、彼にふさわしいことでした。 |
| 幕の内側に入り、営所の外に出ることによって | ヘブル 6:20 先駆者イエスは、永遠にメルキゼデクの位による大祭司となって、わたしたちのために幕の内側に入られたのです。<br>ヘブル 13:13 ですから、わたしたちは彼のそしりを担い、営所の外に出て、彼へと行こうではありませんか。 |

| MSG7 救いの創始者（キャプテン）、先駆者が多くの子たちを栄光へ導き入れるのは、幕の内側に入り、営所の外に出ることによってである | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | 多くの子たちを栄光へ導き入れるのは、 | 神の永遠の目標は神の団体的表現です | A | 創造された人が神を表現する |
| | | | B | 贖われた人が神を表現する |
| | | | C | 新エルサレムが神を表現する |
| | | キリストは救いの創始者です | D | 栄光へ導き入れるキャプテン |
| | | わたしたちを栄光の中へと導き入れる | E | 救いのキャプテンに従って栄光の中へと入る |
| | | | F | 救いのキャプテンは栄光の種です |
| | | | G | 苦難の過程を通して栄光の中へと入る |
| | | | H | 大祭司としてわたしたちの為に祈ることによって |
| | | | I | 聖別を通して、栄光の中へと入れられる |
| Ⅱ | 幕の内側に入り、営所の外に出ることによってである | 入ること、出ることの意義 | A | 主が御座に着くことと、宗教から出て来ること |
| | | その経験 | B | 至聖所である霊の中にいて、営所がある宗教の外にいる |
| | | | C | 霊に戻り、霊を活用し、幕の内側に入る |
| | | その背景と結果 | D | イスラエル人が金の子牛の偶像を拝んだ原則とわたしたちへの警告 |
| | | | | モーセが営所から出た結果<br>＊モーセの幕屋は神の幕屋となる<br>＊モーセは神のパートナーとなる |

| 日 | | 主題 | 要点 |
|---|---|---|---|
| D1 | 多くの子たちを栄光へ導き入れるのは、 | 神の目標と救いの創始者としてのキリスト | 神の**目標**は多くの子たちを栄光へ導き入れることです |
| | | | キリストはわたしたちが入る栄光の**創始者**です |
| D2 | | 種としてのキリストと苦難の過程を通して栄光の中へと入る | キリストはわたしたちの中の**栄光の種**です |
| | | | **苦難の過程**を通して救われ栄光へと入る |
| D3 | | 聖別することを通して、わたしたちは栄光の中へと入れられる | 聖別は神のエコノミーの**保持する線**です |
| | | | 聖別の**過程**を通して |
| D4 | 幕の内側に入り、営所の外に出る | 幕の内側に入り、営所の外に出ることの意義と経験 | 意義 |
| | | | 経験 |
| D5 | | イスラエル人が偶像を拝んだ原則とわたしたちが受けた警告 | 金の子牛の偶像を拝んだ原則 |
| | | | わたしたちの受けた警告 |
| D6 | | モーセが営所から出た結果 | モーセの幕屋は神の幕屋となる |
| | | | モーセは神のパートナーとなる |

| まとめの言葉<br>**栄光の中へと入る** | |
|---|---|
| 聖別を経験する | 救いのキャプテンに続いて、幕の内に入り、営所の外に出る |
| 栄光なる事業を経営する | キリストのパートナとなって、神に団体的な表現をもたせる |

**救いの創始者(キャプテン)、先駆者が多くの子たちを栄光へ導き入れるのは、**

**神の永遠の目標は神の団体的表現です**

Ⅰ．**神の永遠の目標**は、多くの子たちを栄光へ導き入れることです：

**＊創造された人が神を表現する―栄光とは、神の表現、すなわち表現された神です。**

A．神は彼の栄光のためにわたしたちを創造し、形づくり、さらには造りました。栄光とは、神の表現、すなわち表現された神です。わたしたちが神にささげることのできる最高の奉仕は、栄光の中で彼を表現することです――イザヤ 43:7．Ⅰコリント 6:20．10:31．Ⅱコリント 3:8-9，18．4:1，5．出 40:34。

**＊神の永遠の定められた御旨は贖われた民が団体的に神を表現することです**

B．神の永遠の定められた御旨は、彼の贖われた民を通して、団体的にご自身を表現することです――創 1:26．エペソ 3:16-17 前半，21。

**＊神の栄光を持つ新エルサレムは、神の団体的な表現です**

C．神の栄光を持つ新エルサレムは、神の団体的な表現です：

1．光としての神は、ともし火としての小羊の中で、またともし火としての小羊を通して輝き出て、究極的には都全体を通して輝き出ます。そして、都に神ご自身の現れを帯びさせます――啓 21:10-11，18，23．4:3。

2．わたしたちは新エルサレムを見るとき、神の表現（ともし火の中の光が、碧玉を通して輝き出ること）を見ます。

**＊キリストはわたしたちを栄光へ導き入れる救いのキャプテンです**

D．キリストは、わたしたちを栄光へ入れる満ち満ちた救いの創始者（キャプテン）です――ヘブル 2:3，10：

1．イエスは神聖な栄光の種であり、地に落ちて死に、復活における栄光の中で成長して開花しました――ヨハネ 12:23-24．ルカ 24:26．Ⅰコリント 15:36，43 前半。

2．彼の成長によって、彼の人性と彼の人の性質を含む彼の全存在は、神の栄光の表現の中へともたらされました。

3．彼は「栄光の中にある人」、すなわち神の表現の中にある人です。この人は、神の表現、神の栄光でさえあります――補充本詩歌 16 番。

**種としてのキリストと苦難の過程を通して栄光の中へと入る**

**＊救いのキャプテンに従って栄光の中へと入る**

E．創始者、キャプテン、開拓者、先駆者（ヘブル 6:20）として、彼は先頭を切って栄光の中に入りました。彼に従って行くわたしたちは、同じ道を歩んでおり、神がわたしたちのために定めた同じ栄光の中へともたらされつつあります（Ⅰコリント 2:7．Ⅰテサロニケ 2:12）。

**＊救いの創始者(キャプテン)は、わたしたちの中にある栄光の種です**

F．**救いの創始者（キャプテン）**、すなわち栄光の中の人、神の栄光である人は、わたしたちの中にある**栄光の種**です――コロサイ 1:27．Ⅰヨハネ 3:9：

1．わたしたちの救い主は、先頭を切って戦い、栄光へと入りました。彼の一生は、栄光のために戦う過程でした――ルカ 12:49-50。

2．わたしたちの中にある栄光の種の成長は、戦いの過程です。

3．栄光とは、神聖な要素がわたしたちの中から開花することです。

4．わたしたちの入る栄光とは、わたしたちの中に種としてまかれた神聖な要素の栄光です――Ⅱテサロニケ 1:10。

**＊苦難の過程を通して栄光の中へと入る**

G．わたしたちは苦難の過程を通して、栄光の中へと、すなわち神の表現の中へと救われます。わたしたちのすべての苦難は、わたしたちを助けて、わたしたちにシオンへの大路を歩ませ、わたしたちを栄光から栄光へと造り変え、わたしたちをキリストの栄光の花嫁とならせます――ヘブル 10:32-35．Ⅱコリント 4:16-18．詩 84:5-7．Ⅱコリント 3:18．ローマ 8:17-18，21。

**＊大祭司としてわたしたちの為に祈ることによって**

H．わたしたちの救いの創始者（キャプテン）であるキリストは、彼の職務を果たし、わたしたちを栄光へ導き入れます。それはわたしたちの大祭司となって、わたしたちのために祈り、また神をわたしたちの中に供給することによってです――ヘブル 2:16-18．7:25．8:2。

**聖別を通して、わたしたちは栄光の中へと入れられる**

**＊神聖な聖別は、神聖なエコノミーを遂行することにおける保持する線です**

Ⅰ．救いの創始者（キャプテン）であるキリストは、多くの子たちを栄光へ、すなわち神の団体的な表現の中へと導き入れます。それは彼らを、聖別を通して有機的に救うことによってです。この神聖な聖別は、わたしたちの霊の中の聖別する霊によって遂行されます――2:10-11．エペソ 1:4-5．Ⅰテサロニケ 5:23．ローマ 5:10．15:16．エペソ 5:26：

1．神聖な子たる身分のための神聖な聖別は、神聖なエコノミーの中心であり、新約における啓示の中心思想です。

2．神聖な聖別は、神聖なエコノミーを遂行することにおける保持する線です。それはわたしたちを神聖に「息子化」し、神の子たちとならせ、命と性質において神と同じにして（ただし神格においてではない）、わたしたちが神の表現となるためです：

初期の聖別　－捜し求める聖別

a．捜し求める聖別、すなわち初期の聖別は、わたしたちを悔い改めさせるためであり、わたしたちを神へと連れ戻します――Ⅰペテロ 1:2．ルカ 15:8-10，17-21。

地位上の聖別――贖う聖別

b．贖う聖別、すなわち地位上の聖別は、キリストの血を通してであり、わたしたちをアダムからキリストの中へと移し入れます――ヘブル 13:12。

性情の聖別――再生する聖別

c．**再生する聖別**、すなわち**性情の聖別**の開始は、わたしたちの霊からわたしたちを更新し、罪人であるわたしたちを神の子たちとならせます――Ⅱコリント 5:17．ヨハネ 1:12-13。

性情の聖別の継続――更新する聖別、

d．**更新する聖別**、すなわち**性情の聖別の継続**は、わたしたちの思いからわたしたちの魂の各部分まで、わたしたちの魂を更新し、わたしたちの魂を神の新創造の一部分とならせます――ローマ 12:2 後半．エペソ 4:23．ガラテヤ 6:15。

日ごとの聖別――造り変える聖別

e．造り変える聖別、すなわち日ごとの聖別は、キリストの要素をもって新陳代謝的にわたしたちを再構成し、わたしたちを新しい構成とならせ、キリストの有機的

なからだの一部分とします――Ⅱコリント 4:16．Ⅰコリント 3:12。

形づくる聖別――同形化する聖別

ｆ．同形化する聖別、すなわち形づくる聖別は、わたしたちを栄光のキリストのかたちに形づくり、わたしたちをキリストの表現とならせます――ローマ 8:28-29．Ⅱコリント 3:18。

究極的に完成する聖別――栄光化する聖別

ｇ．栄光化する聖別、すなわち究極的に完成する聖別は、わたしたちの体を変貌させることによって、わたしたちの体を贖い、わたしたちを栄光の中でキリストの満ち満ちた表現とならせます――ピリピ 3:21．ローマ 8:23。

## 幕の内側に入り、営所の外に出ることの意義と経験

Ⅱ．ヘブル人への手紙の目標、すなわち究極の結論は、わたしたちが幕の内側に入り、営所の外に出ることです――ヘブル 6:19-20．13:13．詩歌 414 番：

### ＊入ること、出ることの意義

Ａ．幕の内側に入るとは、主が栄光の中で御座に着いている至聖所の中へと入ることを意味します。営所の外に出るとは、主が拒絶され追い出された宗教から出て来ることを意味します：

１．営所は、地的なものであり人のものである宗教組織を表徴します。

２．あらゆる宗教は人の組織であり、地的な領域であって、人々を神のエコノミーから遠ざけます。

### ＊至聖所がある霊の中にいて、営所がある宗教の外にいる必要

Ｂ．わたしたちは、経験的に言って今日の実際的な至聖所があるわたしたちの霊の中にいなければなりません。そして今日の実際的な営所がある宗教の外にいなければなりません：

１．わたしたちは霊の中にいて、天のキリストを享受すればするほど、ますます宗教の営所の外に出て、苦難を受けているイエスに従うようになります。

２．わたしたちは霊の中にとどまって、栄光の中にいる天のキリストに触れれば触れるほど、ますます宗教の営所の外に出て、低くされたイエスへと行き、彼と共に苦難を受けるようになります。

３．真の新約の務めは、わたしたちを霊の中で、幕の内側に入らせ、キリストの享受へともたらし、わたしたちを強めてイエスに従わせ、営所の外に出て行かせ、彼のからだのために彼の苦難の交わりにあずからせます――Ⅱコリント 11:2-3，23-33。

４．幕の内側で、わたしたちは天のキリストの務めにあずかります。それは、わたしたちが装備されて、営所の外で渇いている霊にキリストを供給するためです。

### *霊に戻り、霊を活用し、幕の内側に入る

Ｃ．幕の内側に入るとは、わたしたちの霊の中へと入ることです。わたしたちは霊に戻って、霊を活用するとき、幕の内側に入ります――Ⅰテモテ 4:7-8：

１．わたしたちは霊を活用し、用い、使わなければなりません。それは、わたしたちの霊を燃え立たせ、わたしたちの思いを霊に付け、わたしたちの魂と霊を識別することによってです――Ⅱテモテ 1:6-7．ローマ 8:5-6．ヘブル 4:12。

２．わたしたちは霊を活用して、幕の内側に入り、天のキリスト、すなわち栄光の中にある人と直接の接触を持ち、彼を見つめ、彼が注ぎ込まれ、注入されるようにしなければなりません。それは、わたしたちが彼の団体的な複製となるためです――Ⅱコリント 3:18。

3．幕の内側にいるとは、至聖所の中にいることです。この領域の中で、わたしたちはキリストにあずかり、彼を隠されたマナ、芽を出した杖、命の法則として享受します。それは、神の団体的な表現という結果になり、神の永遠の定められた御旨を成就します――ヘブル 9:3-4。

**＊イスラエル人が金の子牛の偶像を拝んだ原則とわたしたちへの警告**

D．イスラエルの子たちが金の子牛を拝んだ後、モーセは営所の外の場所に移動し、主を追い求めるすべての人は、モーセに会いにそこへ行きました。なぜなら、主の臨在も語りかけもそこにあったからです――出 33:7-11．参照、民 12:6-8：

基本原則

1．わたしたちは金の子牛の偶像の原則によって警告される必要があります。金の子牛は神の贖われた民が造った偶像であり、彼らを偶像礼拝の営所としました――Ⅰコリント 10:5-7．エゼキエル 14:3．Ⅰヨハネ 5:21 とフットノート 3 の第 1 段落：

a．自分を美しく見せることは、偶像礼拝へもたらします――出 32:1-3．33:5-6．創 35:2-4．参照、出 28:2．イザヤ 60:21。

警告

b．偶像礼拝とは、神がわたしたちに与えたものをサタンが横領して、それを浪費させることです。それは、神がわたしたちに与えたものを乱用することであり、物質的なものと霊的なものの両方の神の賜物を、神の定められた御旨のために用いないことです。

c．偶像礼拝は、わたしたちが楽しんでいるものを礼拝すること、すなわち、楽しみ、娯楽、宴楽を礼拝することです――出 32:6，18-19．参照、詩 36:8-9。

d．偶像礼拝には、真の神を礼拝しているという見せかけがあります――出 32:4-6．列王上 12:26-30。

e．偶像礼拝には、礼拝の中に混合があります――出 32:4-6，21-24。

＊モーセが営所から出た結果

2．モーセは、主の臨在がもはや民の間にないことを認識したので、自分の天幕を移して、営所から離れた所に張りました。すると、彼の天幕は神の天幕となりました――33:7。

3．営所は、宗教的な人々を表徴します。彼らは名目上は主に属していますが、実は偶像を拝み、主ご自身以外の何かを礼拝し、追い求めています。

4．モーセが自分の天幕を移して偶像の営所から分離させた後、主は彼に顔と顔を合わせて語りました。それは人が自分の仲間に語るようにでした――11 節：

a．神とモーセは仲間、同僚、パートナーであり、偉大な事業の中で同じ仕事に携わり、共通の権益を持ちました。

b．モーセは神と親密であったので、神の心を知り、神の心にしたがっており、神の心に触れることができた人でした――14 節。

c．わたしたちは幕の内側に入り、偶像の営所の外に出て、主との最も近い、最も親密な関係を持つ必要があります。それは、わたしたちが、神と共通の権益にあずかる人となり、神に用いられて、地上での神の事業を遂行することができるためです。